

伝道に関するアンケート調査結果報告

河野和雄兄：伝道委員会委員

3月14日に各教会役員へ開拓伝道の思いを知るためにアンケート調査を実施致しました。その結果に付いてご報告いたします。(過去5年間の調査)

- * 回答状況：29/25 * 遠方への移動の有無：68%有・32%無
- * 移動地域件数：第1位関東(14)第2位中部(3)第3位中国(2)他/北海道・東北
- * 移動人数：関東(45)中部(5)中国(4)東北(2)北海道(1)
- * 要望・意見等の抜粋

- ・10年以上前に有力なクリスチャンホームが埼玉・千葉等に引っ越しされた。恵みの丘迄遠い為、つい近くの教会へ出席されそのまま転会されました。残念に思いましたが、MB教団のビジョンが明らかでなかった事を悔やんでいます。
- ・MBで育った自立したクリスチャンホームが移動した時をチャンスと捉えましょう。「家の教会」による教会形成もアピールして下さると良いと思われまます。
- ・伝道に力を入れているカップルが一家族います。新しい伝道地を探しています。ダラスを卒業しているアメリカ人です。しかしMBの伝道スタイルを彼らに押し付ける場合は難しい描畧にますなっています。
- ・新たな伝道の展望が持てるように期待しています。



みんなで伝道所を励ましに行こう！

～小牧キャラバン伝道隊参加者募集～

酒井昭男兄：伝道委員会委員

伝道委員会では、小牧の伝道所を訪問し、礼拝やトラクト配布等の活動を共にし、伝道所の方々を励ますことを目的に、今年もキャラバン伝道隊を派遣します。下記のとおりその参加者を募集します。奮ってご応募ください。

- ・とき 2015年8月23日(日)
- ・ところ 小牧ホープチャペル(不破師)～愛知県小牧市～
- ・内容 午前10時15分～礼拝、交わり、トラクト配布～午後3時30分
- ・申込締切 8月9日(日)
- ・定員 申込先着5名程度
- ・申込方法 酒井昭男(石橋教会)へFAX(072-763-0563)かメール (akiosakaimb@gmail.com)で、住所・氏名・TEL番号・所属教会を知らせてください。

※尚、教団から旅費の一部が援助されます。当日の集合時間・場所等は、後日連絡します。

編集後記：皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0038 大阪府池田市荘園2丁目1-12 TEL:072-762-5731

発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：河野和雄(広報担当)

2015年初夏号

日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

MB伝道ニュース



開拓伝道のビジョンを語る【Ⅲ】



武田信嗣師：審議委員会委員長

教会は開拓するものです。しかし宣教65年を経た段階で、開拓伝道とはこれだというイメージが描きにくいものです。日本MB初期宣教師たちが軽井沢に集まり共に描いた開拓伝道は本当にシンプルでわかりやすいものでした。サポートしてくださっている北米の信徒たちにも届いたわかりやすい幻でした。つまり放送伝道(朝の光・世の光)→ラジオラレー(中之島公会堂)→鉄道沿線に会堂建設というものでした。当時のこのようなMB宣教師のビジョンは関西圏においては戦後宣教開始の諸派をリードするもので戦前からの教派が社会派運動で混乱するなか、MBは誇りを持って一貫した開拓伝道を進めたのです。しかし1970年以降、宣教師たちが関西圏から離れ、中国・東海に出て行くなかで、次の戦略を練らねばならなくなりました。教団は新しい時代に突入したのです。それで1970年頃からは、本格的に教会成長論が導入され、諸教会主体の教会成長論にシフトしていき、その結果、教勢は2000年50周年頃には最高潮に達しました。しかしすでに1990年代には開拓伝道力は減速し、すでに1980年代後半にその兆候はありました。1990年代はそのような現状を打開するための道が超教派から提供されました。新しいタイプの聖霊運動、礼拝改革を伴う賛美運動、また韓国式弟子訓練、小グループ活動、健康な教会を目指そうとするパーパスドリブンなどでした。自分の牧会する教会でも1995年から自主活動、2000年頃から多部礼拝(時間開拓伝道)、また最近教会をターミナルにするだけではなく、家をターミナルにする家の教会を模索しています。どの教会も地道なトライアルを続けています。しかしその間、教団開拓伝道のほうは見えないままで今日まで来ました。さてこれからどのように教団として宣教をしていきましょうか。私たちの教団は約30教会約30牧師でまとめやすい教団になりました。200教会以上の大きな教団を横目で見ながら、彼らよりは制御しやすい群れだと勝手に思い、危機意識を持たぬまま来てしまったように思えてなりません。また大きな教団に比べて先輩牧師のリードを頂き、割合牧師の世代交代も容易に進めることができました。今、教団開拓伝道で以前からビジョンとしてそのままになっているのが関東伝道でしょう。もし関東がローマならばパウロの気持ちになって早くいきたいものです。しかし関東に出て行く熱い説得力のあるmissionを頂いた方が出てきた段階でも遅くないと思います。そこにいのちがあるならば、失敗も覚悟しつつ教団はサポートできるのではないかと思います。もう一つは、もし転勤などによる関東への信徒流出が教団教勢に影響を与えているのであるならば、関東より北を宣教地とする教派と連携していくのはどうでしょうか。特に今回の東北大震災でMBが東北になかったことにより他派との連携を学んできたのではないのでしょうか。MB宣教地決定のmissionを受けたMCCのティルマン師がもしあのとき、横浜への入港を許されたならば、今頃は関東中心MBとなっていたはずで。さて私たちも、初期宣

教師インパクトに相当するインパクトをそろそろ受けたいものです。他派との連携は良いアイデアだと思います。また ICOMB による世界との繋がりを日本宣教の道具とすることも熟考していきたい、それから MB 独自の賛美歌集・MB 独自の式文集などを作っていくならば、MB ライフスタイルに影響を与えるシンボルとしての力を発揮できていると思っています。

いづみホープチャペル宣教レポート(その3) 【良循環の関わり】

田畑雅紀師：伝道委員会委員長

韓国の短期宣教チームを受け入れを3、4年経つと、実質的な実りがあるのかが問われるようになりました。毎年7月に2週間、彼らが大学伝道をしている時は、教会に20名以上の若者が集まってきました。彼らは日本の青年たちと親しくなり、いろいろな形で福音を語り、信仰の決心に導きます。そして、救いを受け入れる学生も起こされていきました。しかし、韓国の青年たちが帰国すると、教会に定着する学生は残らず、打ち上げ花火の後の空しさだけが残る状態でした。彼らも日本の学生のためにフォローをしてくださり、いろいろなソーシャルメディアでつながっていたのですが、教会が帰国後の韓国のチームとの連携が取れていないことが課題でした。

その後、教会は韓国チームのメンバーが個人的に日本を訪問してくれることを希望し、日本の学生と教会で食事の交わりをすることを応援しました。そのような中で、一人の過去にいづみに来た韓国の学生が長期の弟子訓練として大阪に来て、当教会で奉仕に携わっていただくようになりました。

この学生を通して、教会の青年も一緒になり、いままでの韓国の宣教チームでつながりのあった日本の学生と継続して関わりを持ち、教会に青年が集うようになりました。そして、さらに関係を深めるために、学生を派遣して下さっている大邱 CCC (キャンパス・クルセード・フォー・クライスト) に当教会からも訪問をしました。そこで、過去に当教会に来てくださった学生たちと再会し、日本での働きのために励ます機会を持つことができました。その後も、当教会での韓国学生の奉仕者が続き、私たちも毎年継続して韓国を訪問し、今では、日本への短期宣教チームに参加する学生が起こされるように直接アピールをさせていただいています。



韓国宣教チーム



2015 年度伝道委員会メンバー紹介

左から酒井昭男兄(会計)・中島若樹師(JMS委員)
畑雅紀師(委員長)・服部 尚師(副委員長)
河野和雄兄(書記)

2015 年度アクションチームの来日 !!

服部 尚師：伝道委員会副委員長/アクションチーム担当

今年もMB諸教会の伝道活動の助けとして、伝道委員会は北米MBミッションからアクションチームをお招きします。今回はカナダから17~28才の男性2名女性3名の5名で構成された青年チームが7月11日から8月10日まで来日されますので、皆さんにご紹介します。



アダム・ストロング兄は昨年続く2度目の来日で、チームリーダーの1人です。23歳のマニトバ州ウィニペグ出身です。彼は現在ウィニペグ大学で教育学を専攻しています。余暇にはカナダに来たばかりの学生のために英語を教えています。旅行、書くこと、コーヒー、そして新しいことに挑戦するのが好きです。この夏の神さまの恵みの働きを期待しています。

もう1人のチームリーダーのジェニー・クラッセン姉はサスカチュワン州サスカトーン出身の28歳です。サスカチュワン大学に通い、芸術と科学の授業をとっていますが、教育を専攻していて、小学生の子どもたちや障害の人たちを教えたいとのこと。私はフェイスリバー・クリスチャン・フェローシップのメンバーで、教会の管理人のアルバイトをしています。



ジョサイア・ウェーバー兄も昨年続いた2度目の来日です。23歳のブリティッシュコロンビア州アボッツフォード出身で、現在フレイザーバレー大学の2回生で、文学専攻で英語を勉強しています。日本語を学び日本のために仕えるように神さまが導いておられるような気がしていて、この夏、神さまがどんなことを用意してくださっているか楽しみだと言うことです。

ローラリー・ディック姉は27歳のマニトバ州ウィニペグ出身です。昼間は作家で、夜はESL(外国人に英語を教える)教師としてマニトバ・トレード&テクノロジー・インスティテュートの夜間プログラムで、移民の大人たちに英語を教えています。英語を教えていないときはたいてい本を読んだり自分で小説を書いたりしています。神さまのカナダ、また、世界中でどのように働いてくださるか楽しみにしておられます。



ローズ・プレグマン姉は16歳(もうすぐ17歳)のマニトバ州ウィニペグ出身です。現在リンデン・クリスチャンスクールに通っており、神さまが大好きです。今年4月19日に洗礼を受けました。特にスポーツと旅行が好きで、神さまのみ心を求めていきたいと思っています。素晴らしい音楽の才能などの持ち主です。『全てを委ねて神についていきなさい』と『神があなたに成長してほしいと思われるとき、神はあなたに、このままではいけないという思いを与えられる』という言葉が好きで、神さまのみ心のために、私の人生を捧げたいと願っておられます。

“今年初めてチームを招かれる枚方キリスト教会と共に、

チームの働きと守りのためにお祈りさい。”